



2020年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年7月12日

上場会社名



株式会社ロゼッタ

上場取引所 東

コード番号 6182 URL <https://www.rozetta.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 五石 順一

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 グループ管理本部長 (氏名) ジェイコブソン 陽子 TEL 03-6685-9570

四半期報告書提出予定日 2019年7月12日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切り捨て)

1. 2020年2月期第1四半期の連結業績 (2019年3月1日~2019年5月31日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年2月期第1四半期	975	49.8	170	279.2	170	268.6	110	208.4
2019年2月期第1四半期	651	22.1	44	20.3	46	23.0	35	103.7

(注) 包括利益 2020年2月期第1四半期 110百万円 (206.6%) 2019年2月期第1四半期 35百万円 (103.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年2月期第1四半期	10.75	10.41
2019年2月期第1四半期	3.57	3.41

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年2月期第1四半期	2,861	1,304	45.5
2019年2月期	2,642	1,194	45.1

(参考) 自己資本 2020年2月期第1四半期 1,302百万円 2019年2月期 1,191百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年2月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2020年2月期	-	-	-	-	-
2020年2月期 (予想)	-	0.00	-	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年2月期の連結業績予想 (2019年3月1日~2020年2月29日)

現在当社では、MT事業が2018年2月期第4四半期より急成長期に入ったことから、経営方針を短期的利益ではなく中長期的成長の最大化に一点集中しております。今期から当面の間、MT事業の売上成長率が落ち着く（目安として対前年比150%）までは、業績予想は固定値として開示しないこととしております。業績予想数値に縛られて費用を加減調整することなく、時々々の機に応じて長期成長の目的のみに最も適合する選択に徹するためです。

なお、2020年2月期の連結業績予想は、最低額のみ開示で、過去最高売上（2,908百万円）以上、過去最高利益（営業利益338百万円）以上としてのみ公表いたします。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 1社（社名）－ 除外 2社（社名） 株式会社インターメディア、スピード翻訳株式会社

(注) 詳細は、添付資料P. 5「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動）」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 5「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年2月期1Q	10,296,260株	2019年2月期	10,296,260株
② 期末自己株式数	2020年2月期1Q	330株	2019年2月期	286株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年2月期1Q	10,295,933株	2019年2月期1Q	10,042,084株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算説明資料の入手方法）

決算補足説明資料はT D n e t で同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	4
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	4
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	4
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	5
(継続企業の前提に関する注記)	5
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	5
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	5
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	5
(追加情報)	5
(セグメント情報)	6
(1株当たり情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2019年3月1日～2019年5月31日)につきましては、引き続きMT事業において『T-400』の販売が好調でした。これに伴い営業部門から管理部門まで全社的に大幅な増員を行い、今後の急速な業容拡大に向けた組織体制強化に取り組みました。

結果、当第1四半期連結累計期間における当社グループの売上高は975,364千円(前年同期比49.8%増)、営業利益は170,525千円(同279.2%増)、経常利益は170,443千円(同268.6%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は110,673千円(同208.4%増)となりました。

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

①MT事業

MT事業におきましては、『T-400』の販売が引き続き好調に推移し、売上高は469,598千円(前年同期比235.9%増)となり、今後の急速な業容拡大に向けて営業部門から管理部門まで全体的に販売管理費も大幅に増加した結果、セグメント利益は52,337千円(前年同期比382.5%増)となりました

②HT事業

HT事業におきましては、売上高は387,590千円(前年同期比8.0%減)となりましたが、主に管理系の本社機能を大幅削減する等の販売管理費の合理化により、セグメント利益は111,301千円(前年同期比82.9%増)となりました。

③クラウドソーシング事業

クラウドソーシング事業におきましては、売上高は118,175千円(前年同期比31.1%増)となり、主に管理系の本社機能を削減する等の販売管理費の合理化により、セグメント利益は15,543千円(前年同期比535.8%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は1,461,783千円となり、前連結会計年度末に比べ138,525千円増加いたしました。これは主に現金及び預金が120,121千円増加、たな卸資産が8,748千円増加したことによるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ80,581千円増加して1,400,174千円となりました。これは有形固定資産が27,268千円増加、無形固定資産が55,126千円増加したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は1,296,563千円となり、前連結会計年度末に比べ140,050千円増加いたしました。これは主に前受金が198,377千円増加、賞与引当金が43,916千円増加したことによるものであります。固定負債は、前連結会計年度末に比べ30,882千円減少して261,289千円となりました。これは長期借入金の返済によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は1,304,105千円となり、前連結会計年度末に比べ109,939千円増加いたしました。これは利益剰余金が110,673千円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現在当社では、MT事業が2018年2月期第4四半期より急成長期に入ったことから、経営方針を短期的利益ではなく中長期的成長の最大化に一点集中しております。今期から当面の間、MT事業の売上成長率が落ち着く(目安として対前年比150%)までは、業績予想は固定値として開示しないこととしております。業績予想数値に縛られて費用を加減調整することなく、時々々の機に応じて長期成長の目的のみに最も適合する選択に徹するためです。

なお、2020年2月期の連結業績予想は、最低額のみ開示で、過去最高売上(2,908百万円)以上、過去最高利益(営業利益338百万円)以上としてのみ公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	853,378	973,500
受取手形及び売掛金	360,515	355,942
たな卸資産	51,237	59,985
その他	66,716	80,206
貸倒引当金	△8,589	△7,851
流動資産合計	1,323,258	1,461,783
固定資産		
有形固定資産	236,489	263,758
無形固定資産		
のれん	89,513	84,198
ソフトウェア	432,361	785,930
ソフトウェア仮勘定	423,287	130,166
その他	468	463
無形固定資産合計	945,631	1,000,758
投資その他の資産	137,471	135,658
固定資産合計	1,319,592	1,400,174
資産合計	2,642,850	2,861,958
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	140,961	116,313
1年内返済予定の長期借入金	231,601	198,201
未払法人税等	111,002	62,480
賞与引当金	26,577	70,493
前受金	440,309	638,686
その他	206,061	210,387
流動負債合計	1,156,513	1,296,563
固定負債		
長期借入金	292,171	261,289
固定負債合計	292,171	261,289
負債合計	1,448,684	1,557,852
純資産の部		
株主資本		
資本金	250,794	250,794
資本剰余金	1,230,983	1,230,983
利益剰余金	△289,839	△179,166
自己株式	△435	△532
株主資本合計	1,191,502	1,302,079
新株予約権	458	458
非支配株主持分	2,206	1,567
純資産合計	1,194,166	1,304,105
負債純資産合計	2,642,850	2,861,958

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年5月31日)
売上高	651,196	975,364
売上原価	273,192	329,971
売上総利益	378,003	645,393
販売費及び一般管理費		
給料手当及び賞与	102,357	135,765
賞与引当金繰入額	20,457	35,054
その他	210,219	304,047
販売費及び一般管理費合計	333,033	474,867
営業利益	44,969	170,525
営業外収益		
受取利息	15	10
為替差益	138	1
その他	2,053	386
営業外収益合計	2,207	398
営業外費用		
支払利息	920	480
その他	15	—
営業外費用合計	936	480
経常利益	46,241	170,443
特別利益		
保険解約返戻金	11,513	—
特別利益合計	11,513	—
特別損失		
固定資産除却損	1,672	0
特別損失合計	1,672	0
税金等調整前四半期純利益	56,082	170,443
法人税等	20,198	60,408
四半期純利益	35,883	110,035
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△638
親会社株主に帰属する四半期純利益	35,883	110,673

(四半期連結包括利益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年5月31日)
四半期純利益	35,883	110,035
四半期包括利益	35,883	110,035
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	35,883	110,673
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△638

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

当第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社グローヴァによる株式会社インターメディアの吸収合併及び、株式会社エニドアによるスピード翻訳株式会社の吸収合併を行いました。これにより株式会社インターメディア、スピード翻訳株式会社が消滅したため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年3月1日 至 2018年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	MT事業	HT事業	クラウド ソーシング 事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	139,808	421,260	90,127	651,196	-	651,196
セグメント間 の内部売上高又は 振替高	600	35,986	47,056	83,643	△83,643	-
計	140,408	457,246	137,184	734,839	△83,643	651,196
セグメント利益	10,846	60,842	2,444	74,133	△29,164	44,969

(注) 1. セグメント利益の調整額△29,164千円には、セグメント間取引消去、報告セグメントに帰属しないのれんの償却額、及び全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社本社の管理部門に係る費用等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	MT事業	HT事業	クラウド ソーシング 事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	469,598	387,590	118,175	975,364	-	975,364
セグメント間 の内部売上高又は 振替高	28,518	643	51,491	80,653	△80,653	-
計	498,116	388,234	169,666	1,056,017	△80,653	975,364
セグメント利益	52,337	111,301	15,543	179,182	△8,656	170,525

(注) 1. セグメント利益の調整額△8,656千円には、セグメント間取引消去、報告セグメントに帰属しないのれんの償却額、及び全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社本社の管理部門に係る費用等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、GLOZE事業部を株式会社グローヴァーに承継させる会社分割を行っており、これに伴い前連結会計年度より従来の「GLOZE事業」、「翻訳・通訳事業」、「企業研修事業」を「HT事業」に統合し、「MT事業」「HT事業」「クラウドソーシング事業」の3つを報告セグメントとしております。従来のGLOZE事業では、MT（機械翻訳）技術とHT（人間翻訳）との組み合わせによる、品質の標準化、コストダウン、納期短縮を図る受託翻訳サービスを提供してきました。

しかしながら、前連結会計年度において当社MTの精度が大幅に向上したことにより、現在の当社の経営課題は「完全自動化（MTによるHTの完全な代替）へのラストワンマイル」の段階に移行しており、もはやGLOZE事業とグローヴァーの翻訳事業とを区別する意味が希薄になったことから組織の合理化のために再編するものであります。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成しており、「I 前第1四半期連結累計期間（自 2018年3月1日 至 2018年5月31日）」の「1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報」に記載しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年5月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	3.57円	10.75円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	35,883	110,673
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	35,883	110,673
普通株式の期中平均株式数(株)	10,042,084	10,295,933
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	3.41円	10.41円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	471,960	334,254
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—